

## 2 同じ部首の漢字を調べさせる指導について

～ 漢字ビンゴゲームを活用した指導～（5・6年）

<table border="1"> <tr><td>天</td><td>太</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>矢</td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	天	太			矢					<table border="1"> <tr><td></td><td>棒</td><td></td></tr> <tr><td>林</td><td>村</td><td>板</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		棒		林	村	板				<p>夫 夫</p> <table border="1"> <tr><td>「大」</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td>「？」</td></tr> </table>	「大」	「？」	<p>難しいもの</p> <p>樹 樹</p> <table border="1"> <tr><td></td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td>「？」</td></tr> </table>		「？」	<p>【板書事項】</p>
天	太																									
	矢																									
	棒																									
林	村	板																								
「大」																										
「？」																										
「？」																										
<p>5 初めは、部首が比較的分かりやすい漢字から漢字ビンゴゲームを開始する。教師あるいは代表の児童を順番にあて、それぞれの部首の漢字を一字ずつ黒板に書いていき、児童は自分のカードにある漢字に を付けていく。</p>	<p>【指導の流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 部首が比較的分かりやすい漢字を一字、児童に提示し、漢字の部首を考えさせる。 (例) 樹</li> <li>2 部首を特定するのが難しい漢字を一字、児童に提示し、漢字の部首を考えさせる。 (例) 夫</li> <li>3 漢字辞典を引かせ、それぞれの漢字の部首（部首名）を確認させる。</li> <li>4 提示した二つの漢字と同じ部首をもつ漢字を考えさせ（カードが埋まらない場合は漢字辞典を使って調べさせ）、配置を工夫しながら二枚の自分のビンゴカードに記入させる。</li> </ol>	<p>【留意点】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 初めは、部首が明らかかなもの、すべての児童が分かるもの、慣れてきたら、部首が難しい漢字を提示する。二種類に限定することなく児童の実態に合わせて行う。</li> <li>3 漢字辞典で確認させ、自分の知らない部首や間違っ て覚えていた部首などに気付かせる。</li> <li>4 漢字数が少ない場合は二、三種類の部首の漢字を調べさせ、ビンゴカードに記入させる。学習していない漢字の記入も認める。</li> <li>5 黒板に書く際に、漢字の部首は赤チョーク等を使うことで意識付けを図る。 全体で行うだけでなく、グループや列を生かして行う方法も有効である。</li> </ol>																								